

「西和賀の人と自然と環境を守り育てる豊かな里づくり」

# えいごみゆう

西和賀広域エコミュニシウムだより

平成十六年三月二十五日発行

創刊号

## 創刊のあいさつ

西和賀広域エコミュニシウム推進協議会

会長 太田 祖電

### 「西和賀の宝を見つめ直そう」

西和賀地域には、長い歴史の中で培ってきた自然や伝統文化、技術、独特の料理などがあります。これらは、地域の大切な「資源・財産」であり宝であります。生活の近代化や経済活動の中で年々、多くのものが失われてきました。これからの時代、こつした資源・財産を見つめ直し、われわれ自身が保存や伝承することで、生活や地域振興に結び付けていくことが必要となっています。この活動を西和賀全域で展開するため、西和賀広域エコミュニシウム推進協議会が発足してからまもなく二年になろうとしています。

地域の資源を再認識するための「地元学」などを行い、この資源を活かして地域づくりに取り組みはじめた地区も出てきました。湯田・沢内すべての地域で住民自身によるこつした取り組みが進めば、西和賀の生き方が地域社会のモデルとして注目されるでしょう。活動のキャッチフレーズである「西和賀の人と自然と環境を守り育てる豊かな里づくり」を目指し、皆さんと共に事業を進めてまいりますので、積極的なご参加をお願いします。

## エコミュニシウムとは何か

### エコミュニシウム

＝エコ＋コミュニシウム

「エコ」は、エコロジ（Ecology）の概念を基盤とし、EcologyはEconomyと同様に、語源はギリシャ語のオイコス（Oikos：家族、生活の場）に由来しています。

エコミュニシウムは、自然、人々の生活、経済、文化、人間と環境との関係を総合的に扱う博物館の一種です。

### エコミュニシウムの特徴

エコミュニシウムの目的は、「地域の生活と自然及び文化遺産を、本来それがあべきところにあるがままに保存育成し、その地域の発展に寄与すること」であります。

このことから「生活環境博物館」とか「地域の人々の生活と環境を守り育てる博物館」などと言ったほうがわかりやすいでしょう。

特徴としては、従来の博物館が自然や文化遺産の保存という、後ろ向きの過去の遺産保存型博物館であったのに対して、エコミュニシウムは、保存や保護だけでなく、これから生活している人のために育てていくこととする、前向きの生きている共生型博物館です。

## 地域づくりとの関係

このエコミュニシウムが対象としている地域に固有の歴史・文化・社会環境・自然環境を現地において保護保全復元しようとする点で、地域の人々の生活から切り離すことはできません。そこに生活する人々も学芸員となっていたら、地域資源の掘り起こしを行い、地域の発展に寄与するために、社会全体での密接な取り組みが不可欠です。

## 今後の活動予定

### 情報紙の発行

広報にエコミュニシウムの活動内容を掲載して、みなさんにお知らせしたいと思っています。

これからは、年に四回季刊紙として発行していく予定です。

### 研修会の開催

地域の住民や行政のみなさんにエコミュニシウムを理解していただくために、先生を呼んで講演会などを開催したいと思っています。

### 研修会のご案内

日時 三月二十九日午後三時から

場所 湯田町役場会議室

講師は猛禽類の第一人者で、

エコミュニシウムの検討委員長としてご指導いただいている、

関山房兵先生です。

お忙しい時期ですがご参加下さい

## 地元学の開催

地域にあるものを探しながら、地域のことをよく知ったり伝えたりしながら、住民が地域のことを大切に思う心を育てていきたいと思っています。

### 地元学開催地区の募集

地元学をまだ実施していない地区で、是非やってみたいと思う地区は、気軽に声を掛けて下さい。

### ツアーの実施

子供たちや親子など一般の人を対象に、体験もできるツアーを企画して、エコミュニシウムの周知と定着を図っていく計画です。

今年のツアーの予定は、まだ決っていませんが、次回に案内を出したいと思っています。

### ホームページの作成

エコミュニシウムの活動や情報を手軽に受けやすくと考えています。役所のホームページから簡単にアクセスできるようにしていきます。

ご意見をお寄せください。

西和賀広域エコミュニシウムの

事務所は下前分校から

左草小学校に引越しました。

連絡先 左草一割地二三〇番地十一

電話八一 一八五〇

湯田町 電話八一 三三八五観光課

沢内村 電話八五 二二一一総務課

# 昨年の取り組み

## プレッラーの開催

平成十五年十一月十三日(木)に西和賀広域エコミュージアムのプレッラーを行いました。西和賀広域エコミュージアム推進協議会の皆さんに、エコミュージアムの活動を知っていただき、途中経過のご報告をしました。

午前中は、湯田町の高橋文治さんから鷲之巢金山跡と秀衡街道のお話をさせていただき、場所を越中畑地区に移し、瀬川強さんにサクラバハノキの群落、沢口神社の大杉、御番所跡を案内していただきました。午後からは、沢内村の大田地区の歴史めぐりで、太田祖電さんから碧祥寺の説明を受け、八幡様大銀杏を見学しました。そして七内地区の山の神社境内にある、県内でここにしかない草木供養経のお話を、沢内村教育長の高橋繁さんからいただきました。



八幡様大銀杏(大田地区)  
紅葉した銀杏の葉が、辺り一面に落ちていました。葉が落ちてから、三週間後に降る雪が根雪になると言われています

## 「地元学とは」

「地元学」とはその地域にある「ふつつのもの」「つまり」「ある物」を探すことです。

そのようなものは探さなくてもいつも見ているではないかと思いがちですが、あまり身近なものがある事にも気づかないことがあります。

いつも見ている草花の群生も何でも知っているお年寄りも、漬け物、家の横にある小川も山の木もよそから来た人から見ると特別の物に思えるのです。

そこで、地元学では地元の人が普段気づかないことを学ぶことをいいます。

やり方は、地元の人が家の周りを外から来た人を連れて歩きます。

その時、「写真機とその周りの地をもつて、聞いた話を記録に取っていきます。」

その記録を後で、調べてみると、地元の人、普段見過ごしていてもこんなものがあったのかと改めて気づくことがいっぱいあるのです。

## 地元学の開催

川舟地区(安ヶ沢、丸志田)の地元学は、平成十五年九月二十八日(日)に行いました。

参加した皆さんからは、「館や川舟断層、昔の街道跡など、今の地図にない場

所を案内していただいて大変おもしろかった」や「六十年前の昔の田んぼの数や形まで良く覚えていてびっくりした」という感想がありました。

案内していただいた地元の人からは、「カタクリ以外にも歴史の重みがたくさん詰まっていた、宝があると実感しました」や「他の住民や子供たちにも知らせてふるさとを残していきたい」など昔のことを思い出しながら話していました。



はせ掛け(安ヶ沢地区)  
他の町では見られなくなった風景です

安ヶ沢という名前の由来は、サワゲルミをヤシと呼んでいて、「ヤシがある沢」からきているということでした。また、丸志田地区は、和賀川と横川が合流し、何度も洪水で流され、丸い地形になったことから付いたそうです。

湯田地区の地元学は、平成十五年十月二十六日(日)に行いました。

この地区は、地域のカルタづくりのため、調査を事前に行っていましたので、

お宝リストができていて、丁寧に案内していただきました。

参加者からは、「ドブガイがこんな身近にあるので驚いた」や「身近にある植物でも案外知らないと感じた」という地元の人からの意見や、「参加できなかった子供たちに伝えたい」という意見が多く出されました。

また、案内していただいた地元の人が命名した「紅葉の滝」や「西和賀小富士山」を教えていただき、最後にカルタの歌を詠んで、絵をいくつか紹介していただきました。



昔の射撃場(湯田地区)  
昔、兵隊さんが練習をしていたそうです

## 最後に

湯田、沢内の西和賀地区の住民や団体のみなさんの活動と連携を組んで、ネットワークづくりを行い、地域に広げて行きたいと思っています。

みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

今後も西和賀広域エコミュージアムの活動にご注目してください。